

平成 30 年度 富田林市総合教育会議 会議録

◎ 開催日時 平成 30 年 11 月 29 日（木）午後 3 時 00 分～ 3 時 50 分

◎ 場 所 富田林市役所 庁議室

◎ 出席者

市長	教育長	教育長 職務代理者	教育委員	教育委員
多田 利喜	芝本 哲也	仲野 務	山元 直美	勝山 健一

◎ 事務局

谷口 市長公室長	山下 教育総務部長	山本 生涯学習部長	古村 教育総務部付 部長兼 教育指導室長
辻野 教育総務部次長 代理兼教育指導 室次長	山本 教育総務課長	西岡 教育指導室参事	谷塚 教育総務課長代理

平成 30 年度 富田林市総合教育会議 会議録

平成 30 年 11 月 29(木)

開会：午後 3 時 00 分

閉会：午後 3 時 50 分

山下教育総務部長

ただ今から、平成 30 年度の富田林市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、公私とも何かとご多用のところ、総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議の進行役を務めさせていただきます、山下でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、何点かのご報告とご確認をさせていただきます。本日、南教育委員につきましては、所用により欠席されておりますので、ご了承をお願いいたします。また、総合教育会議につきましては、富田林市総合教育会議設置要綱第 5 条の規定により、原則、公開となっております。なお、本日の傍聴者はございません。また、会議時間は 1 時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日、お配りしております資料のご確認をさせていただきます。まず、会議次第、続きまして、資料 1、学校 ICT 環境整備について、最後に、本日の出席者の配席表でございます。皆様、資料はお揃いでしょうか。それでは、早速ですが、次第に沿って会議を進めたいと思います。会議次第の 2、多田市長より開会のご挨拶をお願いいたします。

多田市長

本日は、教育委員の皆様方には、何かとご多用にも関わりませず、本会議にご出席いただきまして、心から厚く御礼申し上げます。また、日頃は本市教育行政の推進に多大なご尽力を賜りまして、改めて御礼を申し上げる次第でございます。

本日は、平成 30 年度の会議となりますが、本年 10 月からは、阪井委員の後任として、南委員が教育委員にご就任され、また、勝山委員におかれましても、再任されましたこと、非常に嬉しく思っております。新たな体制のもとで、教育委員の皆様方には、今後とも本市の教育行政の向上のために、ご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

さて、本市では、総合基本計画におきまして、子どもたちが安全・安心でかつ快適に学習に取り組めるよう、快適な教育環境づくりを推進しておるところでございます。中学校におきましては、年間を通じて学習に集中できるよう、計画的に中学校の普通教室へのエアコン設置を進めてまいりましたが、本年 9 月をもちまして、設置がすべて完了いたしました。また、小学校におきましても、今夏の記録的な猛暑を受けまして、国の補助制度を活用いたしますことで、平成 31 年度末までに全 16 小学校のすべての普通教室へのエアコン設置を目指してまいりたいと考えております。さらには、今年の 6 月には、大阪北部地震が発生いたしました。高槻市において、ブロック塀の倒壊により児童が命を失うという事案も発生いたしました。たいへん大きな心の痛みを感じまして、即座に、本市の学校園並びにすべての公共施設のブロック塀の点検を命じました。危険であると判定された塀につきましては、すべて撤去を命じました。現在は、新しい塀設置に向けて事業を進めている状況でございます。このような状況に、本市におきましても、より良い学習環境づくりを着実に進めているところでござ

いますが、本日の会議におきましては、今後、新学習指導要領が全面実施になることを見据えまして、学校における ICT 教育の必要性、また、ICT 機器の整備などにつきまして、意見交換をしたいと考えております。本日も皆様と率直な意見交換をしながら、有意義な会議にしたいと考えておりますので、どうぞご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつといたします。

山下教育総務部長

どうもありがとうございました。続きまして、次第の 3、芝本教育長からご挨拶をお願いいたします。

芝本教育長

平成 30 年度の総合教育会議に際しまして、まず、教育委員会を代表いたしまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。本年度も総合教育会議という市長と我々教育委員会が懇談できる貴重なお時間を設定いただきましたこと、本当にありがとうございます。市長がいつも言っておられます、まちづくりは人によってなされて、人は教育によって育まれるものであると、このお言葉を聞くたびに、教育行政に携わる者としてとても嬉しく、教育を通してまちをつくるというその責務とやりがいに、我々は身が引き締まる思いでおります。今年を振り返りますと、先程市長のお言葉にもありましたが、地震、台風などの自然災害、また、異常なまでの暑さが発生しました。市長には御礼を言う事しかできませんけれども、いつも子どもたちの安全を第一に考えていただいて、ブロック塀の改修、また、小中学校へのエアコン整備など、本当に即時対応いただいていることを心より感謝いたしております。本日は、先程市長よりご提案のありました、学校における ICT 環境の整備ということで、本当にこれからの未来を拓く子どもたちにとって不可欠な教育課題について、市長共々、委員皆様の忌憚のないご意見を交わし合いながら、本市教育の益々の充実と子どもたちの健やかな成長に繋げていければと、そのように考えております。改めまして、この会議を設定いただきましたことに感謝を申し上げまして、この会議が充実するものであることを、皆様、よろしくお願いいたします。

山下教育総務部長

どうもありがとうございました。続きまして、次第の 4、本日の案件に進みたいと思います。まず、(1) 学校における ICT 環境整備について、の、①「学校 ICT 環境整備について」につきまして、事務局から説明を受けたいと思います。引き続き、②「他市における ICT 機器を活用した授業風景」をご覧いただきたいと思います。それでは、教育総務課から説明をお願いいたします。

山本教育総務課長

それでは、資料 1、学校 ICT 環境整備について、ご説明させていただきます。まず、1 ページの 1、学校を取り巻く ICT 化の状況でございますが、近年、ICT の急激な進展に伴いまして、社会のあらゆる分野での情報化が進んでおり、高度情報化社会を生き抜くために、これからの子どもたちには、環境の変化や周囲の状況について、適切かつ主体的に対応できる情報活用能力の育成が求められているところでございます。さらに、平成 29 年 3 月に改訂されました新学習指導要領では、情報活用能力が言語能力、問題発見・解決能力等と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられ、また、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが明記されたところでございます。小学校におきましては、プログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動におきまして、積極的に ICT を活用していかなければ

ならない状況となっているところでございます。

次に、2、国の動向といたしましては、平成 32 年度から順次全面実施される新学習指導要領を見据え、学校において最低限必要とされ、かつ優先的に整備すべき ICT 環境整備について明示するため、新たに、教育の ICT 化に向けた環境整備 5 か年計画を公表しております。これらを踏まえまして、本年 6 月 15 日に閣議決定された第 3 期教育振興基本計画におきましては、5 か年計画に基づき、学校の ICT 環境整備の加速化を図ることが明記されています。国が掲げております、ICT 機器等の目標水準、及び国の水準により算出した本市の ICT 機器等の目標水準は、2 ページの表に記載しておりますので、ご参照ください。

次に、2 ページに移りまして、3、本市の学校 ICT 環境のこれまでの取組といたしましては、平成 13 年度から 14 年度にかけて、校内 LAN 等の整備、各小中学校にコンピュータ教室を設置し、各校 40 台の教育用パソコンを配置するなど、ICT 環境の整備を行ってまいりました。また、平成 21 年度には、国の補助金を活用しまして、校務用コンピュータ 246 台、大型デジタルテレビ 222 台、電子黒板 24 台を整備しております。その後、各小中学校のコンピュータ教室については、リニューアルを進めている状況でございます。しかしながら、校内 LAN は整備から 15 年、校務用コンピュータは購入から 8 年が経過し、いずれも経年劣化が進んでいる状況となっております。

次に、3 ページに移りまして、4、本市がめざす学校 ICT 環境の整備でございますが、これまで、ICT 機器等の整備は行ってまいりましたが、最優先課題としまして、子どもたちの命にかかわる学校施設の耐震化や、より良い学習環境の整備として、全中学校普通教室へのエアコン設置を進めるなど、様々な要因によりまして、学校における ICT 環境に関しては、多くの課題が残された状況となっております。新学習指導要領の総則におきましては、ICT 環境を整備する必要性が規定され、社会生活の中で ICT を日常的に活用することが当たり前の世の中になっている中、子どもたちが社会で生きていくために必要な資質、能力を育むためにも、学校生活や学習において、日常的に ICT を活用できる環境を整備していくことが重要となってまいりますので、これからの子どもたちが、活躍することとなる将来を考え、ICT を活用することを前提として教育環境と整えられるよう、本市の学校 ICT 環境整備を進めていきたいと考えているところでございます。以上で、資料 1 の説明とさせていただきます。

続きまして、教育指導室の方から、他市で実際に行われている、ICT 機器を活用した授業風景をご覧いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、他市における ICT 機器を活用した授業風景について、プロジェクターでご紹介させていただきたいと思っております。

《ICT 機器を活用した授業風景の紹介》

まず、家庭科の授業におきまして、ミシンの操作手順を確認するため、タブレット端末の録画機能を利用して、児童が実際にミシンを使っているところを順番に撮影しています。その後、教師と一っしょに映像を見て、ミシン操作の振り返りをしています。

次に、理科の実験結果を予想する授業となります。はじめにスライドを使って、教師が前回の実験を振り返り、今日の授業で行う実験内容を説明しています。児童はパ

ソコンを利用して、学校のネットワーク上に保存されている各グループのスライドを開き、実験結果の予想をスライドに直接書き込み、保存します。そして、保存したスライドを利用して、グループごとに予想を発表していきます。そして、教師がスライドと実物の実験器具を使って実験の方法を説明、実験後、児童は実験結果をスライドに直接書き込み、次回の授業で活用できるようデータとして保存しています。

次に、算数の授業で「かきの種飛ばし選手権」という題材を基に、児童が監督となり、選手権に出場させる選手を選ぶという内容です。この授業は、児童たちが意見を共有し、相互に発表するという方法で進めており、教師はスライドに問題場面と学習課題を提示して説明、児童は誰を選手にするかを考え、ワークシートに理由を書き、教員用端末にデータを送信、スライドで児童一人一人が誰を選んだかを提示し、その傾向を基に小グループを作り、タブレット端末を使いながら自分の考えを発表し合い、より良い考えに練り上げていきます。そして、それぞれの立場から、練り上げた考えを全体で発表、最終的に誰にするかを再考し、教員用端末にデータを送信、最終的に児童一人一人が誰を選んだかをスライドに提示し、それぞれの立場から今回の学習を振り返ります。

少し補足で説明いたしますと、この授業では、どの選手を選んだらよいかという正解はございません。これからの世の中は、決まりきった正解がない時代になっていくと言われており、正解がない中で、児童が根拠を見つけて説明できる力や、お互いの説明を聞いて、それぞれが納得できる納得解や最適解という答えを見つけ出していく力などを育成することが求められています。そういった意味では、このタブレット端末を使って授業をするということが、教師が説明する時間をできるだけ短縮して、児童がじっくり考えたり、発表し合ったりする時間をより充実させていくために、非常に有効であると言われております。

引き続きまして、小学校で必修化となるプログラミング教育について説明させていただきます。プログラミング教育につきましても、ICT 機器を活用した授業の一環でございますが、プログラミング教育の目的は、どのような動きの組み合わせが必要かということを考えて、動きに対応した命令をどう組み合わせるか、より良いプログラムを作るためにはどのように改善すればよいかという、プログラミング的思考を育成することが重要だと言われております。実際にどのような形で授業を進めていくかについては、今年の夏の教職員研修で使いました二つのソフトウェアを例にご説明いたします。

こちらは、小学校の低学年でも使えると考えられます「ビスケット」というソフトウェアになります。こちらはタブレット端末の画面に簡単な絵を描いて、その絵をいろいろなツールを使って、児童が思い通りに動かそうというプログラムになります。まず、何をしたいのかということを確認に伝え、それをするにはどうすればよいかという論理的な思考の手順を子どもたちに楽しみながら体験させるというソフトウェアでございます。

次に、小学校中学年から高学年向けに使われると考えております「スクラッチ」というソフトウェアになります。先程と同様に絵を動かすプログラムですが、こちらは、わかりにくいプログラミングの命令を「ブロック」という絵に置き換えて、その絵を

組み合わせてプログラミングを行います。プログラミングというと、文字を打ち込んでいくというイメージでしたが、今はマウスや指でなぞって、ブロックを並べていく方法となっています。このようなプログラミングを通じて、出された課題に対して、自分なりの課題を発見して、より良い改善方法を見つけていくという資質・能力を養っていければということで、プログラミング教育が導入され、今後、本市でも実施していきたいと考えております。以上で説明とさせていただきます。

山下教育総務部長

ありがとうございました。事務局からの説明でございました。教育総務課からは、国の動向、また、国が示しております ICT 機器の整備基準に基づき、本市に必要な ICT 機器の目標台数などの説明がございました。教育指導室からは、他市で行われております実際の授業風景を映像でご覧いただき、今後、どのように ICT 機器を活用していくのかについて、ご理解いただけたかと思えます。いずれにしましても、平成 32 年度から始まります新学習指導要領の実施に向けて、ICT 環境の整備を進めていく必要がございます。本日は、各委員の皆様方に忌憚のないご意見、ご質問等ございましたら、おっしゃっていただきまして、活発なご意見の交換をしていただけたらと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

山元教育委員
西岡教育指導室参事

先程の説明にもありましたが、先生方への研修は、タブレットでされたのですか。今回の研修につきましては、中学校に配置しておりますノートパソコンを使用して実施しております。

山元教育委員

説明を見ておりますと、やっぱりタブレットだったら簡単だろうなと思えました。子どもたちもスマートフォンなどで慣れていきますので、すぐに使いこなせるようになると思います。また、ミシンの使い方については、家庭科で多くの子どもたちが、つまずくところなんですね。理科の実験も、昔は実験ノートなどがありましたが、データで自分の実験結果が保存できるというのは、すごい魅力だなと思いついて見せていただきました。

仲野教育長職務代理者

市長、教育長のごあいさつにもあったように、これまでブロック塀や暑さ対策などの優先課題があり、そちらに力を入れていただいて僕も嬉しいですけれども、一方、国の動きや時代の流れからいうと、この ICT についても進めていかなければならないということで、これから何を優先していくかということにもなってくると思いますが、ぜひ、この ICT についても力を入れていただければと思います。

その理由としまして、仕事柄、大学に行くのですが、出欠については、IC カードを利用しています。学生も授業の出席確認は IC カードを利用しているわけですが、これは非常に簡単で、出欠確認を行う先生など、管理する側にとっても日々の集計や個人、クラスごとの出欠状況など、仕事量が多く多忙な先生方を支援できるような、そういった面においても、整備が進んでいけばと思います。

もう一つは、整備を進めていくためには、費用も必要となりますが、例えば、プロジェクターだけでも、教室に一つずつ取り付けるなど、整備を進めている団体もあります。その団体は、教師がタブレットで、子どもたちのノートの写真を撮り、それをプロジェクターに映し出して発表するなど、タブレットが全員分なくても、教師だけでもあれば、ICT を活用した授業が可能ですので、少しずつでも進めていただければと思います。ただ、団体によっても取組みに差がありますし、特に義務教育の方面で

は、あまり ICT の活用が進んでいないと思っています。だから、国においても、ICT 環境の整備を進めるように計画などを出してきていると思います。

勝山教育委員

例えば、学習用コンピュータについて、今あるコンピュータも経年劣化し、支障をきたしているということで、本市の目標水準はかなりの台数ですから、整備するとなると多大な経費が必要になると思いますが、国からは、学習用コンピュータに求められる性能や機能など、そういう指導はあるのですか。

山本教育総務課長

ワープロソフトや表計算ソフトなど、学習で利用するソフトウェアが安定して動作すること、無線 LAN が利用できる機能を有することなど、コンピュータ全般に求められる一般的な考え方は示されておりますが、細かな機能について、指導などはございません。

勝山教育委員

各市町村の裁量になるのですか。

山本教育総務課長

はい、そのように認識しております。

勝山教育委員

新たな ICT 環境整備に関する計画が出てきたとなると、いろんなコンピュータ会社が学校教育向けに参入してきていると思います。今後、ICT 機器を導入するにしても、できるだけ良い水準で安価なものを整備したほうが、同じ費用を出すにしても良いと思いますが、例えば、このような端末を考えているとか、パソコン 1 台について、どのくらいの費用が必要になると考えているのか教えてください。

谷塚教育総務課長代理

ノートパソコンにつきましては、1 台で約 100 千円から 110 千円、タブレットは、教育機関向けもございまして、費用につきましては、1 台で約 39 千円、必要になると考えております。

勝山教育委員

各市町村での調整や全国的な動向として、この程度の機器を整備していくという方向性はあるのですか。110 千円は高いような気もしますが、大量に導入するとなると、もっと安くなるのではないかと考えますが。

谷塚教育総務課長代理

各市町村との調整や全国的な方向性は特にございません。ICT 機器の導入につきましては、ご指摘のとおり、入札となりますことから、パソコンの仕様などにもよりますが、単価はかなり下がるのではないかと考えております。

勝山教育委員

本市だけで考えているというのか、他市町村はどうなのかなど、動向などは調査しているのですか。担当者同士で相談などされるのですか。

谷塚教育総務課長代理

近隣市町村との会議や各団体の担当者とお話もさせていただいております。

勝山教育委員

貴重な税金を使うわけですから、できるだけ良い買い物をしていただきたいですね。

山下教育総務部長

南河内におきましても、各市町村との連絡協議会のような会議体もございまして、そういったところでは議案には挙がってきております。ただ、市町村によっても、現時点での進捗具合が異なり、ある程度整備に着手されている市町村もございまして、今後、どのような機器を整備していくかについては、各団体によって変わってくる状況でございます。

勝山教育委員

子育てするなら富田林ですから、他の市町村に対して遅れをとりたくないですね。

芝本教育長

先程の説明にもありましたが、かつて富田林市は、多田市長のご尽力により、大阪府でも上位に入る校内 LAN の設置率でありました。その時は、他市からもたくさんのお見学が来られました。ただ、10 数年経ちますと、国から提供されるデジタルコンテンツも画像から映像になり、現在の環境では視聴に影響がある場合もございまして、時代

の進歩は速く、これまでいろいろな工夫はしてきましたが、今回、新たに ICT 環境の整備を進めていきたいと思っています。

山元教育委員

ちょうど、平成 13 年度から校内 LAN の整備や平成 21 年度の電子黒板、大型テレビの導入など、教育の流れを子どもたちといっしょに見てきて、本当にその都度、子どもたちが授業の形態が変わるということで、とてもやる気を出したり、喜んでいた様子を思い出すのですが、やはり ICT 機器の使用について、絶対に言えることは、映像や音声、図形などが立体的に映るので、授業自体が非常に解りやすいということ、子どもたちが何かあればすぐにインターネットで調べられるという自主学習のような時間を与えれば、効率的に調べられるメリットや学習意欲に繋がっていくということで、良い成果があると私は思っております。また、今では幼児期から情報機器に触れるということで、私たちがずっと言ってきた情報リテラシーも早期に教育ができますので、大きくなってから出会うことに比べたら、早期に情報機器に出会うことは大事だと思っております。また、私は、この ICT 環境が進んでいく教育に期待をかけています。それは、例えば、不登校の子どもたちが、在宅授業をネットで受けることができることや、発達障がいなど、障がいを持った子どもたちが自分をなかなか表現できないときに、先程のプログラミング教育のような方法で自分を表現できるという、将来的に優しいというか、適応できる教育になっていくのではないかと考えています。しかし、整備には費用もかかり、これまでもいろいろな事に力を入れていただいておりますが、是非とも、子どもたちが身近に情報機器に触れることができるようお願いしたいと思います。

多田市長

先程の映像を拝見しまして、学校現場がここまで進歩しているのか、ということを感じました。確かに、今の時代の潮流からいけば、これが当たり前な教育なんだと思います。当初、この ICT のお話をお聞きしたときは、学校における財源の問題を含めて、学校教育には多額の予算が必要になってくるという印象がありました。ご存じのように耐震工事から始まりまして、トイレの改修、あるいはエアコン設置など、さらに ICT 環境の整備となりますと、市全体の予算から見ると、教育委員会関係の予算だけが增大するということも否めない事実だと思います。そういった中で、いかにバランスよく、これから新年度予算を構築することも、考えていかなければならないと思いますが、これだけの内容を拝見しますと、ではこれを後年度に先送りしてもよいのかといいますと、そうではないだろうと考えています。先程おっしゃったように、一日も早く、本市の子どもたちにも、このような教育を受けることができる環境づくりが、非常に大事ではないかと感じました。そういった意味では、当初は骨格予算となりますが、今後、平成 31 年度予算を構築する段階では、しっかりと考えていく必要があるのではないかと考えております。必要性ということについては、痛切に感じましたので、今後、段階的にでも充実していきたいと感じたところであります。

芝本教育長

ICT 環境の整備に当たっては、その環境を活用できるよう各学校の先生方を指導していただくようお願いします。実際に ICT 機器を既に導入している先進的な団体では、先生方への研修なども実施しているようですので、それだけはお願いしておきたいと思えます。

山下教育総務部長

他に、ご意見などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。貴重なご意見

を多数いただきまして、ありがとうございました。今後の ICT 環境の整備に向け、頂戴しましたご意見を踏まえまして進めてまいりたいと考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

次に (2) の、その他でございますが、事務局から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。委員の皆様方、総合教育会議の全般を通しまして、何かございますでしょうか。特に無いようでございますので、これで富田林市総合教育会議を終了させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。